

## 悪魔祓い (exorcism) とは何だろうか？

Greatchain

2018/2/12

メラニア・トランプと、彼女が入居前に切望して行ったと言われる、ホワイトハウスへの徹底した悪魔祓いについての考察を続ける。

まずこれは、これだけを切り離して、特に、メディアの世界レベルしか知らない人々に対して話題にしても、軽蔑して一蹴されるだけであろう。これは、我々がこのサイトで取り上げてきた、あらゆる指導者層の驚くべき腐敗や犯罪、また悪霊現象としか考えられない、ペドフィリアの世界的蔓延などを背景に考えなければ、その意味がわからないだろう。中でも、アイルランドのエクソシスト神父が、世界に向かって、もっと多くのエクソシストを養成せよと叫んでいる、悲痛な事実を知らなければ、このホワイトハウスの話を、全体的な関連において捉えることはできない。 <http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180202.pdf>

私の家の前の電柱に、少し前まで「除霊」という広告のビラが貼ってあった。これはエクソシズムに当たるものを、生業とする人の広告であろう。実際に何かが、誰かに憑りつく場合もあれば、ただ単に、不自然に不幸が続くという場合もあるだろう。こういう場合に、キリスト教圏では教会に助けを求める人が多いことが、アイルランドの神父の説明でよくわかるが、わが国ではそれに当たるものがない。しかし問題はそこにはない。

かりに、いわゆる「霊障」と言われるようなものを持つ、不幸な家族が近所にあったとしたら、我々はどう言うか？「まあ、お気の毒に」と言うだろう。これは一般にはそういう不幸な例はあまりなく、それが例外的な場合である。しかし、今、世界で起こっていることは、正常な社会の中で、突発的・例外的に異常が起こっているのではなく、異常が一般化している、あるいはその方向が見えるということである。そしてこの異常は、病理というより、霊現象と見る方が考えやすい。アイルランドの神父も言うように、憑依とは言えないが、世界が悪霊の影響下にあると考えざるをえないケースが、あまりにも多い。これはこのサイトで紹介した、わずかの例を見ただけでもわかるだろう。5歳の少女が、父親のいる近くで襲われ、父親は金切り声を聞いてすぐに駆け付け、素手で犯人を殴り殺す、などということは自然に起こる犯罪ではない。

今、世界的に起こっていることは、善に対する悪の、あるいは神に対する悪魔の、霊的な戦いだと見るべきであろう。この地球そのものが、「悪」に乗っ取られようとしている。これは、あらゆる兆候から見て、その方向性が顕著になってきたということである。これは、地球上の人間、または人間の魂、あるいは人間らしさの奪い合いである。つまり、我々自身が争奪の対象である。「霊障」が地球規模で起こったとき、我々は「まあ、お気の毒に」とは言わない。これは逆から言えば、人類が団結すれば勝てるということである。そういう認識がない限りは、勝てないということである。

もしホワイトハウスを、人類の運命のかかった建造物と仮定すれば、その除霊は、私の家の前の広告の除霊とは違うだろう。私は、除霊とかエクソシズムとかいものが、具体的にどういものであるか知らず、また興味もない。ホワイトハウスの悪魔祓いは、現実にはどの程度の効き目があったかよりも、米大統領夫妻が、問題の本質が霊的次元の戦いだということを、自覚していることに注目したい。

地球を除霊するということは、我々が我々自身を除霊することである。そしてこれは、あらゆる宗教の教える「汝自身の中に汚いものを溜めるな」ということである。武器をもって戦うという戦いでない以上、我々は結束して自己除霊をするより、方法がないではないか？